

香川労働局発表  
令和2年4月28日(火)  
午前8:30解禁

## 1. 労働市場

### (1) 概況 有効求人倍率 1.64倍(前月より0.11ポイント低下) 全国5位

3月の香川県の有効求人倍率(季節調整値で前月比)は、1.64倍(全国5位)と前月より0.11ポイント低下した。平成23年8月以降、104か月連続で1倍台となっている。

新規求人(原数値で前年同月比)は、産業別では、卸売業、小売業、生活関連サービス業、娯楽業等で増加し、製造業、サービス業等で減少となり、全体で10.3%減と3か月連続で減少した。有効求人(原数値で前年同月比)は、10.8%減と3か月連続で減少した。

新規求職(原数値で前年同月比)は、1.7%減と6か月連続で減少、有効求職(原数値で前年同月比)は、2.4%減と4か月連続で減少した。

公共職業安定所別の有効求人倍率(原数値)は、高松1.75倍、丸亀1.43倍、坂出2.14倍、観音寺1.71倍、さぬき1.05倍、土庄1.76倍となった。

正社員の有効求人倍率(原数値で前年同月比)は、1.27倍と0.03ポイント低下した。正社員の新規求人は2.5%減、非正社員の新規求人は16.1%減となったことから、新規求人に占める正社員求人の割合は46.4%と前年同月より3.7ポイント上昇した。

引き続き高い水準で推移しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されることから、香川県の雇用情勢判断を「求人が求職を大幅に上回って推移しているが、新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に十分注意する必要がある」とした。

#### ○ 有効求人倍率の推移(季節調整値)

	31年 3月	4月	元年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月
香川県	1.79	1.83	1.83	1.82	1.80	1.80	1.83	1.80	1.79	1.81	1.73	1.75	1.64
四国	1.59	1.59	1.59	1.59	1.58	1.58	1.58	1.57	1.56	1.56	1.51	1.48	1.42
全国	1.62	1.63	1.62	1.61	1.59	1.59	1.58	1.58	1.57	1.57	1.49	1.45	1.39

(注) 1. 新規学卒者を除き、パートタイムを含む全数。 2. 令和元年12月以前の数値は、新季節指数により改訂。  
3. 有効求人倍率(季節調整値)の季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による。

### (2) 正社員の職業紹介状況 有効求人倍率 1.27倍(前年同月を0.03ポイント下回る)

正社員の有効求人倍率は1.27倍となり、前年同月を0.03ポイント下回った。

3か月連続で前年同月を下回った(同水準の月を含む)。

項目	年 月		31年3月	前年同月比、差 (%、ポイント)
	2年2月	2年3月		
正社員新規求人数 (人)	4,361	4,095	4,200	▲2.5
正社員有効求人数 (人)	12,246	12,116	12,870	▲5.9
正社員就職件数 (件)	648	720	760	▲5.3
常用フルタイム有効求職者数 (人)	9,214	9,539	9,910	▲3.7
正社員有効求人倍率 (倍)	1.33	1.27	1.30	▲0.03
正社員充足率 (%)	14.9	17.6	18.1	▲0.5

(注) 1. 正社員有効求人倍率=正社員有効求人数/常用フルタイム有効求職者数(なお、常用フルタイム有効求職者にはフルタイムの派遣労働者や契約社員を希望する者も含まれているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる)  
2. 充足率=正社員就職件数/正社員新規求人数×100

## (3) 求人動向

新規求人数 8,820 人 (前年同月比 10.3%減少)

パートを含む新規求人(原数値)は、前年同月比 10.3%減と 3 か月連続で減少した。産業別では、建設業(4.2%増)、製造業(34.7%減)、情報通信業(12.5%減)、運輸業、郵便業(6.9%減)、卸売業、小売業(6.4%増)、宿泊業、飲食サービス業(21.7%減)、生活関連サービス業、娯楽業(18.6%増)、医療、福祉(0.4%減)、サービス業(26.9%減)となった。

## ○産業別新規求人数の前年同月比の推移

(%)

産 業	元年 10 月	元年 11 月	元年 12 月	2 年 1 月	2 年 2 月	2 年 3 月
建設業	▲2.1	▲26.7	7.7	▲27.4	10.8	4.2
製造業	0.1	▲14.5	21.5	▲26.8	▲16.0	▲34.7
食料品	18.6	▲20.8	51.2	▲26.8	▲17.1	▲47.8
繊維工業	23.9	▲44.4	▲34.0	▲27.5	▲12.1	▲39.2
パルプ・紙加工品	▲10.8	▲3.4	▲31.5	▲15.0	▲29.5	74.2
印刷・同関連	32.2	15.6	2.1	▲26.2	3.0	▲31.8
プラスチック製品	6.7	▲12.2	25.0	▲36.0	▲25.6	▲47.6
金属製品	▲5.6	▲3.4	13.3	▲53.7	▲5.4	23.7
はん用機械器具	3.4	▲45.9	▲17.5	▲13.6	▲15.6	▲32.3
生産用機械器具	▲31.7	▲31.7	▲5.0	▲39.3	26.5	▲25.8
電子部品・デバイス・電子回路	33.3	85.7	▲58.8	▲6.3	10.0	▲75.0
電気機械器具	▲19.0	▲29.0	23.1	▲8.0	▲48.4	▲4.9
輸送用機械器具	▲16.1	▲7.1	▲8.9	▲40.1	▲5.0	▲37.4
情報通信業	▲43.1	4.3	0.0	▲9.0	▲22.9	▲12.5
運輸業、郵便業	▲8.0	3.0	25.5	▲24.6	▲19.1	▲6.9
卸売業、小売業	▲13.9	▲5.9	27.0	▲31.6	2.6	6.4
卸売業	▲19.5	▲23.2	65.4	▲38.0	▲17.7	47.8
小売業	▲11.5	2.3	11.4	▲28.3	13.4	▲7.8
宿泊業、飲食サービス業	▲8.3	▲6.8	▲6.1	▲17.7	▲0.5	▲21.7
生活関連サービス業、娯楽業	▲10.4	39.4	12.9	▲28.5	31.7	18.6
医療、福祉	2.7	1.2	8.3	7.7	6.3	▲0.4
医療業	▲1.5	7.5	8.8	2.6	25.0	▲2.9
社会保険・福祉・介護	5.9	▲2.9	8.2	11.1	▲5.5	1.7
サービス業(他に分類されないもの)	▲18.3	▲11.0	▲7.7	▲20.7	▲27.8	▲26.9
産業計	▲7.6	▲4.6	11.2	▲13.9	▲3.5	▲10.3

(注) パートタイムを含む全数。平成 19 年 11 月改定の「日本標準産業分類」に基づく区分により表章したもの。

- 建設業 特定の事業所からまとまった数の求人が提出されたわけではないが、人手不足を反映して、中小の業者からの小口の求人提出等が重なり、2 か月連続で増加となった。
- 製造業 前年新設した大手スーパーの惣菜工場に係る大量の求人提出の反動減の他、大小の減少が重なり、全体として大幅減となった。
- 情報通信業 充足等を要因とする小幅な減少が複数件あり、3 か月連続で減少となった。
- 運輸業、郵便業 小豆島の運送業者が、充足のため求人取消。その他、フェリー運営会社が、ホテル業者と経営統合し、採用計画見直しのため求人を取り下げる等あり、3 か月連続で減少となった。
- 卸売業、小売業 増加の主たる要因は、ガソリンスタンドのスタッフの大量求人の更新時期がズレたことによるもの。その他、新型コロナウイルス感染症の影響により、店舗の売上は落ちたものの、ネット通販の需要が逆に伸び、コールセンター要員の求人を新たに提出したオーリーブ製品販売業者もあった。
- 宿泊業、飲食サービス業 琴平町や小豆島の宿泊業者や飲食業者が、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな打撃を受けており、求人を取り下げたケースが多く見られ、全体として大幅減となった。
- 生活関連サービス業、娯楽業 ネットカフェが新規オープンするに伴い、まとまった数の求人提出があった。また、新規オープンする娯楽施設の求人(昨年 12 月に新規提出)が更新される等、2 ヶ月連続で増加となった。
- 医療、福祉 求人更新時期のズレによる減が複数重なったため、結果として微減となったが、介護施設の開設や鍼灸・整骨院が新規オープンするに伴い、新たに求人を提出する等のケースも見られる。
- サービス業 新型コロナウイルス感染症の影響(中国からの部品調達が困難)により、製造業で派遣契約の更新を見送るケースが多く出る等、派遣業での減少の幅が大きく、6 か月連続で減少となった。

(4) 求職の動向

新規求職者数 3,834 人 (前年同月比 1.7%減少)

パートを含む新規求職者(原数値)は、前年同月比 1.7%減と 6 か月連続で減少した。

うち、一般求職者は 3.6%減と 4 か月連続で減少、パート求職者は 2.0%増と 2 か月ぶりに増加した。

○職業別常用有効求人倍率 (倍)

専 門 ・ 技 術 的 職 業	2.39
事 務 的 職 業	0.62
販 売 の 職 業	2.87
サ - ビ ス の 職 業	3.78
生 産 工 程 の 職 業	2.32
輸 送 ・ 機 械 運 転 の 職 業	2.66
建 設 ・ 採 掘 の 職 業	7.12
運 搬 ・ 清 掃 ・ 包 装 等 の 職 業	1.08

(注)1. 各職業は、雇用期間 4 か月未満の臨時、季節を除きパートを含む常用の原数値。

2. 職業分類は平成 24 年 3 月から改定された。

※ 職業別の求人・求職の状況について詳しくは、香川労働局ホームページの「事例・統計情報」欄掲載の「労働市場情報」をご覧ください。

(<https://jsite.mhlw.go.jp/kagawa-roudoukyoku/>)

[ 年齢別の動き ]

パートを除く常用新規求職者は前年同月比 3.6%減と 4 か月連続で減少した。常用有効求職者は前年同月比 3.7%減と 4 か月連続で減少した。

○年齢別常用求職者の前年同月比の推移 (%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上	60 歳以上
常用 新規 求職	1 年 11 月	3.0	20.6	▲ 2.8	▲ 10.0	13.0	2.1	▲ 4.4
	12 月	▲ 2.4	▲ 6.9	▲ 6.1	0.8	1.0	▲ 2.1	▲ 6.6
	2 年 1 月	▲ 1.8	▲ 18.9	1.5	▲ 7.6	10.6	▲ 0.5	7.6
	2 月	▲ 9.1	▲ 30.0	▲ 13.4	▲ 1.1	▲ 8.2	2.3	0.6
	3 月	▲ 3.6	▲ 7.0	▲ 6.2	▲ 7.8	▲ 4.9	9.3	5.3
常用 有効 求職	1 年 11 月	0.0	3.5	▲ 2.2	▲ 2.6	7.1	▲ 4.1	▲ 9.0
	12 月	▲ 2.1	▲ 2.5	▲ 4.9	▲ 5.3	6.9	▲ 4.7	▲ 9.8
	2 年 1 月	▲ 2.5	▲ 8.0	▲ 3.3	▲ 5.2	7.2	▲ 5.4	▲ 9.0
	2 月	▲ 3.6	▲ 17.5	▲ 5.2	▲ 3.6	4.2	▲ 1.7	▲ 4.8
	3 月	▲ 3.7	▲ 15.8	▲ 6.0	▲ 3.4	2.2	▲ 0.5	▲ 5.0

(注)雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

[ 求職理由別の動き ]

パートを除く常用新規求職者のうち、在職者は前年同月比 9.7%減と 3 か月連続で減少、離職者は 1.5%増と 2 か月ぶりに増加した。うち事業主都合離職者は 0.4%増と 2 か月ぶりに増加、自己都合離職者は 2.2%増と 2 か月ぶりに増加した。無業者は 5.1%減と 2 か月ぶりに減少した。

○求職理由別常用新規求職者の前年同月比 (%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上	60 歳以上
計		▲ 3.6	▲ 7.0	▲ 6.2	▲ 7.8	▲ 4.9	9.3	5.3
求 職 理 由	在 職 者	▲ 9.7	▲ 10.4	▲ 12.4	▲ 13.4	▲ 9.2	▲ 0.6	1.1
	離 職 者	1.5	▲ 4.9	▲ 4.2	▲ 2.8	▲ 1.4	19.7	10.8
	事業主都合	0.4	▲ 23.1	▲ 17.2	▲ 7.3	0.0	21.3	25.0
	自己都合	2.2	▲ 4.6	▲ 4.3	▲ 0.9	▲ 3.0	32.0	20.9
	無 業 者	▲ 5.1	▲ 5.6	17.6	▲ 8.7	▲ 4.3	▲ 28.6	▲ 33.3

(注)雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

(5) 就職の動向 就職件数 1,825 件(前年同月比 8.2%減少)

パートを含む就職件数は、前年同月比 8.2%減と 3 か月連続で減少した。うち一般は 15.1%減と 3 か月連続で減少、パートは 2.2%増と 2 か月ぶりに増加した。

パートを含む新規就職率は 47.6%で、前年同月を 3.4 ポイント下回った。

○就職件数の前年同月比 (%)

	全 数	一 般	一 般		パート
			44 歳以下	45 歳以上	
元年 11 月	▲4.2	▲6.7	▲5.8	▲8.1	▲0.7
12 月	1.3	0.0	▲1.2	1.8	3.1
2 年 1 月	▲7.2	▲14.5	▲12.5	▲17.4	5.0
2 月	▲10.7	▲8.9	▲12.5	▲3.7	▲13.5
3 月	▲8.2	▲15.1	▲18.2	▲10.8	2.2

(6) 雇用保険関係 受給者実人員 2,728 人(前年同月比 0.8%減少)

[ 受給者実人員の動き ]

受給者実人員は、前年同月比 0.8%減と 5 か月連続で減少した。

○年齢別受給者実人員 (人、%)

	受給者実人員	前年同月比
年 齢 計	2,728	▲0.8
29 歳以下	369	▲13.0
30～44 歳	794	▲2.9
45～59 歳	965	7.3
60 歳以上	600	▲1.6
44 歳以下	1,163	▲6.4
45 歳以上	1,565	3.7

[ 事業主都合解雇者の動き ]

事業主都合解雇者数は、前年同月比 2.8%増と 5 か月連続で増加した。

建設業は 4 か月ぶりに減少、製造業は 2 か月連続で増加、運輸、郵便業は 2 か月ぶりに増加、卸売・小売業は 4 か月ぶりに減少、宿泊業、飲食サービス業は 4 か月ぶりに減少、医療、福祉は 4 か月ぶりに増加、サービス業は 5 か月ぶりに減少した。

○産業別事業主都合解雇者 (人、%)

	解雇者数	前年同月比
産 業 計	257	2.8
建設業	15	▲ 31.8
製造業	53	6.0
運輸、郵便業	50	525.0
卸売、小売業	29	▲ 67.4
宿泊、飲食サービス業	6	▲ 62.5
医療、福祉	52	420.0
サービス業	10	▲ 28.6

(注) 1. 「高年齢+特例」被保険者を含む。

2. 平成 19 年 11 月改定の「日本標準産業分類」を平成 21 年 4 月より適用、集計したもの。

## 2. 経済情勢（2020年4月16日 日本銀行高松支店「香川県金融経済概況」より抜粋）

### 概況

- 香川県内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、このところ弱めの動きとなっている。

すなわち、公共投資は増加している。設備投資は高水準となっている。個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響から、一部で弱めの動きとなっている。住宅投資は弱めの動きとなっている。こうした中、企業の生産動向は、新型コロナウイルス感染症の影響などから、一部で弱めの動きとなっている。雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得も緩やかに持ち直している。この間、企業の業況感は、悪化している。

### 実体経済

- 最終需要の動向をみると、以下のとおり。
  - 設備投資は、高水準となっている。
    - 3月短観における設備投資（全産業）をみると、2019年度は、前年を上回る見込みとなっている。2020年度は、現時点では、前年を下回る計画となっている。
  - 個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響から、一部で弱めの動きとなっている。大型小売店の売上は、一部で弱めの動きとなっている。乗用車販売は、弱い動きとなっている。家電販売は、足もと弱めの動きがみられている。
    - 住宅投資は、弱めの動きとなっている。
    - 公共投資は、増加している。
- 企業の生産動向は、新型コロナウイルス感染症の影響などから、一部で弱めの動きとなっている。
  - 輸送機械は、振れを伴いつつも、高水準で推移している。化学は、振れを伴いつつも、高めの水準で推移している。電気機械は、持ち直している。非鉄金属、食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。プラスチック製品は、下げ止まっている。金属製品、窯業・土石は、弱めの動きとなっている。汎用・生産用機械は、減少している。
- 雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得も緩やかに持ち直している。
- 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%程度となっている。